

2019年度夏季インターンシップ生 実習報告

【実習館】クレオ大阪 子育て館

1.インターンシップの目的・目標

インターンシップ参加の目的は2つあった。1つ目は、社会人として働くイメージを具体的なものにすること、2つ目は子育て支援事業への理解を深めることだ。今後就職活動を始めるとあたり、まずは一度実際の職場に混じって「働く」ということを体験し、社会人になるイメージを掴みたいと考えた。また、私は人間科学部で発達心理学を勉強し、子どもに関わるサークルやバイトをする経験の中で、地域で子育てを支えることの重要性を感じ、子育て支援事業に興味を持った。そのため、クレオ大阪のような子育て支援事業に携わる施設でインターンシップをすることで、子育て支援の現状や利用者の思いについて理解を深めたいと考えた。

インターンシップでの目標は、上記の2つの目的を達成することで、そのために積極的に職員の方々とコミュニケーションを取ることも目標とした。具体的には、昼休憩の時間に職員の方と話して情報収集をし、業務中はなるべく自分から積極的に動くということを心掛けた。

2.目標の達成度

①社会人として働くイメージを具体的なものにする、②子育て支援事業への理解を深める、③職員の方と積極的にコミュニケーションをとるという3つの目標を立て、実習に参加した。1つ目の目標については、達成することができたと思う。実際に職場に入って感じたのは、限られた時間の中でいかに成果を出すかということが重要だということだ。今後の生活の中でもタイムマネジメント力を鍛えていく必要があると感じた。2つ目の目標についても、概ね達成できた。子育て支援事業に実際に関わる方々からお話を聞き、今後の子育て支援ではお母さん自身の心のケアや居場所づくりも最優先課題となることを学ぶことができた。3つ目の目標については、最初の2日間は緊張して積極的に話しかけることができなかったが、最終的には達成できたと思う。有意義なコミュニケーションを取るためには、事前に聞きたいことなどをある程度準備していく必要があったと感じた。



↑子育て館絵本展の様子

3.感想等

今回インターンシップに参加したクレオ大阪は、市民に寄り添った事業を行う施設で、特に子育て支援・子育て相談事業は多くの親子の助けになっていると実感した。インターンシップに行く前は、自分の進路についてぼんやりとしかイメージを持っていなかったが、このインターンシップを通じて自分のやりたいことを再確認することができ、子どもに関わる仕事がしたいという将来の方向性について考えることができた。

また、このインターンシップでブックフェアや課題に向き合う中で、人に何かを伝えるということの大変さと楽しさを学んだ。伝えるためにはそれ相応の準備が必要で、何を伝えたいか、どのようにしたら伝わるかを入念に考える必要があることが分った。自分が思っているように相手に捉えてもらうのはなかなか難しいが、思っていたことを伝えることができた時は達成感があった。さらにインターンシップの課題でもあった、どうしたら若年層の利用を増やすことができるのかについて常に考えながら仕事をしていたため、普段なら気づかないような発見もすることができ、観察力や思考力が鍛えられたと感じた。

インターンシップでは、受け身になるのではなく自分から意欲的に何かを学ぼうとすることでより実習を充実したものにできると感じた。はじめは緊張したが、職員の方々に積極的に働きかけることができたのはいい経験になり、多くの学びや発見が得られて自信にもつながった。職員の方々がとても親切で丁寧に接してくださり、本当にありがたかった。全体を通して、このインターンシップに参加できて良かったと感じた。この経験を活かし、今後の就職活動も頑張っていこうと思う。



↑ブックフェア



↑最終課題